

すこやか福祉会

地域

との共生に向けた 取り組み報告

～地域貢献活動～



キメのポーズに大歓声



住みなれたまちで

社会福祉法人すこやか福祉会

2016 年 11 月 1 日 第 39 号

みたて団地夏祭り

複合施設「みたての家」がある港区都営団地では、毎年 8 月に団地前の運河沿いで 1 号棟から 4 号棟まで合同のお祭りが行なわれます。今年は 8 月 27 日、当日はあいにくの雨となっ
てしまい、急遽 2 号棟の駐輪スペースで行なうことになりました。

「みたての家」としても、毎年飲み物や食べ物などのお店を出し参加しています。今年は団地の方からリクエストで、手作りワッフルと昔ながらのラムネを出しました。ワッフルは売れに売れて、作る方が追いつかないほどでした。

そして何といたっても一番の見せ場は、毎年恒例、職員によるロックソーランです。このロックソーランを楽しみに来ている方も大勢いました。今年は過去最大の 10 名の職員で披露することができ、踊り終わった後の歓声から、完成度も過去最高だったので
はと感じました。

デイサービスセンターみたて 中野 一仁



いつき ぬくみどころ

一時温み処

葛飾やすらぎの郷には、月曜日～土曜日の 9 時～17 時まで、誰でも休める場所があります！一息つきたいとき・休みたいときには、ぜひお立ち寄り下さい♪

温かい飲み物を準備してお待ちしております！

みさと団地健康祭り

今年は例年の会場と変わり、デイサービスセンター采女の里とみさと健和団地診療所を使用しての健康まつりが 10 月 2 日に行われました。天候にも恵まれ暑いくらいでした。

考えていた以上のお客さんの入りで、会場が采女の里ということで、歩いて来られるご利用者様も名物の秋味ご飯、赤飯、おはぎを買いに来てくださいました。バザーも売れ行き好調で大盛況でした。

采女の里のフロアでは演芸のひろばを行いました。駐車場で行っていた販売の勢いがありすぎて、なかなか人が入らなかったのですが、采女の里の職員による“リンパビクス”を行うと人が集まり、その後は大盛り上がりでした。

初めての試みで行った健康まつりでしたが、皆さまのご協力のおかげでとてもいいものになったと思います。

デイサービスセンター采女の里 笠井 由美



～保育事業部～

【平和の取り組み】 金町学童保育クラブ



私たちの学童クラブでは、毎年夏休みに《平和の取り組み》を行なっています。71年前戦争があつて、みんながとても苦しんだことを学びました。

さらに今年は、青森県大間町に原発を作る話があり、あさこハウスという場所で、たった一人で原発反対！と戦ってこられたあさこさんの話をしました。大間に原発を作らせない為に、頑として自分の土地を売らなかったあさこさん。30年以上、国や推進派からの酷い嫌がらせにも負けなかったあさこさん。1,2年生には、難しいかな？と思って話し始めましたが、みんな真剣に聞いていました。

「あさこハウスまでの道を、人がたくさん通らないと道がふさがれてしまうんだよ。そしたらあさこさんの土地がなくなって、原発が出来てしまうんだって。でもそうならない方法があるの。あさこハウス宛のハガキを郵便屋さんが届けに行けば、道はふさがらない・・・ハガキ、書いた方がいいかな？」と問いかけると、もう子ども達は必死の形相でした。「なにを書いたらいいの？」「えんぴつでもいい？」など、気の早い子はもう筆箱を持って来ていました。



願いを込めて・投函！

あっという間に子どもたちの気持ちの込められたハガキの山が出来上がりました。子どもたちの心には響くものがあったようです。

土日祝日以外の毎日、子どもたちが1日1人ずつ自分のハガキを学童近くのポストに入れに行っています。9月から始めても73人+職員で1月まで続きます。

みんなの思い、ちゃんと届いてほしいです！

金町学童保育クラブ 上野 太一



2016年 原水禁世界大会参加報告記

許しの精神を持ってこそ、平和の実現に近づける

戦争について考える大きなキッカケの一つにしよう、そういう思いで広島原水禁世界大会に参加した。

総会に参加して驚いたことは、アメリカ人のセルジオ・ドゥアルテさんが壇上に上がって、被爆者に対してお詫びの言葉を言っていたことだった。“アメリカ人がいて大丈夫なのか？”“広島の人には怒るんじゃないか？”と思っていたが、(今になって軽率な考えをしていた自分が恥ずかしい)セルジオ・ドゥアルテさんの話が終わると会場には暖かい拍手が起こり、会場の誰も、野次を飛ばす人などいなかった。そこは平和を願う想いでいっぱいになっていた。その瞬間に私が感じたことは、お互いに許しの精神を持ってこそ、平和の実現に近づけるのだと思った。

原水禁世界大会に参加し広島の方たちの姿を見て、私は「真の平和」を望んでいる人は争いで物事は決して解決しないと知っているのだと思った。慰霊碑の文字も人類全体の問題として指しているのだと感じた。

いずれ戦争を経験した人はいなくなる。被爆者の想いを風化させないためにも私たち若い世代がしっかりと受け継ぎ、訴えていかなければならないと思った。私はそれを教わった。人類が同じ過ちを繰り返さないようにしていく。

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 鳴海 友基



核兵器を使用してはいけないという 凄まじい気持ちが伝わってきた

分科会では被爆者による被爆体験のお話を聞きに行きました。話しをして下さった方は被爆したものの、特に外傷は負わなかったそうです。

「一番酷かったのが祖父で、被爆した姿はまるで赤鬼の様に姿を変えており、体の組織は破壊された状態でした」と、内容は悲惨なものでした。➡

話しを聞いて再び戦争を繰り返したり、核兵器を使用してはいけないという凄まじい気持ちが伝わってきました。

世界大会に参加するまでは原爆・戦争についてあまり関心がありませんでしたが、知らない事を知り平和や核兵器のない世界について深く考えられる 3 日間となりました。今後も平和活動に参加し、声をあげて戦争反対・核廃絶の訴えをしたいと思います。

小規模多機能サービスよりみちの家 高梨 達矢



世界から核兵器がなくなるまでこの想いを継承する

私は、初めて原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。世界大会では、被爆者の方々の言葉を生で聴くことができ、被爆者の方々の平均年齢が 80 歳を超えているにもかかわらず、今もなお、未来を変えていくために様々な働きかけをされていることを知りました。私たちのような次世代に、同じ悲劇がまた繰り返されることのないよう、原爆の恐ろしさや残酷さを知ることによって理解を深める場があることの重要性を感じました。

今回、実際に広島を訪問したことで、核兵器が世界からなくなるまでこの想いを継承し、次世代の手によって訴え続けなければいけないのだと感じました。人の命に関わることなので、もう二度と同じことが繰り返されることのないよう、今回の経験の中で少しでも発信していけたらと思います。

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 中島 萌



反核平和の歌で 世界中の平和活動と繋がっていると実感

開会式の歓迎演奏から、広島や全国のうたごえの仲間とステージに立って反核平和の歌を歌いました。4 日開会式のエンディング、5 日の分科会、6 日閉会式もオープニング、文化行事、フィナーレで。歌いながら、5 月 6 日の東京からの平和行進のゴール地点で歌っていることを実感し、東京で参加している活動が世界中の活動と繋がっていると感じました。➡

5 日の分科会は、戦争体験者の役者の方から貴重な体験をお聴きし、歌い手として、表現者として心構えを改めて問い直すきっかけをいただいた事も良い体験でした。また活動を通じて知り合った仲間が別の地域代表で参加していて、互いに励まし合うことができました。今後も平和の為の活動を続けたいと強く感じました。

グループホームかねがふち 大森 正樹



6 日閉会式
後列右から 2 番目が大森さん

デイサービスセンターかなまち 高校生介護一日体験報告

2016 年 8 月 4 日、自分の意識や行動次第で幼くも大人にもなり得る…そんな高校生が、介護現場を体験したいとやってきました。自己紹介は・「祖母が介護を受けていたんです。親も介護の仕事をしていて、興味があり参加しました。」

自立支援への取り組みを主に体験してもらいました。リハビリ見学や利用者様からクラフトや折り紙の作り方を教わりながら取り組んでももらいました。



クラフト作成の様子

体験後の感想は「初めて折り紙をやりましたが、完成した時とても嬉しかったです。介護って、お手伝いしてあげるものと思っていましたが、教えられる事があるなんて。一緒に取り組める事がとても嬉しく、楽しく感じました」

…人の「介護に携わりたい」という好奇心が、体験を経てその想いの変化・成長する様子を間近で感じられました。学生の皆さん、心があたたまるかわりのある場所…自身の心を豊かにしてくれる介護現場に興味を抱いていただければ幸いです。

デイサービスセンターかなまち 紙屋 友信



2017年度新卒介護職員 内定式・内定者の集い開催報告

2016年10月8日(土)千住介護福祉専門学校講堂にて、2017年度新卒介護職員内定式及び内定者の集いを開きました。

第1部 緊張の内定証授与

式が始まり、健和会代表柳原リハビリテーション病院の仁井谷事務長より法人の歴史などを伝えて頂き、今後入職してからも初心を忘れず、会社の理念も意識して働いてくださいと激励していただきました。ケアワーカー部会代表の健和会老人保健施設千寿の郷の清原課長からは、ケアワーカー部会についてと今年入職した方の状況などをお話しし、一緒に頑張っていきましょうと歓迎の言葉を送って頂きました。内定者は真剣な眼差しで頷きながら熱心に話を聞いてくれていました。

内定証授与では証書を受け取る際、やはり緊張からか手汗をぬぐっている方もいらっしゃいましたが、一人一人しっかりと受け取って貰えました。

最後にすこやか福祉会を代表して、本部事務局の中村事務次長からご挨拶と事務連絡をして頂き、集合写真を撮影して内定式を無事終えることが出来ました。



第2部 落ち武者登場するも…!

内定者の集い(交流会)では落ち武者が登場するも、誰も笑うことなく緊張感が継続。そろそろ張り詰めた空気を緩和してもらうため、自己紹介をしてから絵しりとりで先輩職員と対決! みんなの絵心の有無がわかり、画伯の絵をみて笑いが漏れ楽しい雰囲気になりました。絵しりとりが一番盛り上がったのでしょうか。緊張もほぐれたところで食事会へ、先輩たちと話して入職前の不安を質問したり、内定者同士でも会話をし和やかに交流できました。



先輩たちから入職前にしておいた方がいいこと、「学生のうちしかできないこと、特に沢山遊んでおいた方がいいよ!」「時間に余裕があれば介護技術など、基礎を確認してもらえたら嬉しいかな」とアドバイスを受けていました。

全てのプログラムが終了する頃には内定者同士もだいぶ打ち解けた様子で、会話をしながら会場を後にされたようです、同期としての絆を結ぶお手伝いのできたのであれば幸いです。

内定者の感想は・・・

- ★式の際は緊張していたけど、もっと硬い会だと思っていたのでリラックスした会でよかった。
- ★同期と交流できてよかった。
- ★先輩たちから話が聞けてよかった。・・・など。

来年の4月から一緒に仕事ができることを、職員一同心から楽しみにしております、残りの学生生活もしっかりと満喫して下さいね!

柳原リハビリテーション病院 兼子 康弘



随時更新!



本部事務局 〒120-0023 東京都足立区千住曙町 4-16

TEL 03-5813-9251 FAX 03-5813-9252